

## 第2回教育研究内部質保証評価会議検証結果報告

日時：令和6年1月29日（月）午前10時00分～11時45分

場所：第1会議室（本部キャンパス 本館・図書館4階）

出席：計26名

内訳：構成員7名：〔佐野議長、小野構成員（第1号）、浦田構成員（第1号）、人見構成員（第2号）、細田構成員（第2号）、濱田構成員（第3号）、藤田構成員（第4号）〕

説明者12名：〔内山医学部長・教育機構長、大野薬学部長・研究機構長、赤澤看護学部長・学生生活支援機構長、中野医学教育センター長、永井薬学教育センター長、鈴木看護学教育センター長、近藤医学研究支援センター長、中村薬学研究支援センター長、真継看護学実践研究センター長、金沢医学学生生活支援センター長、久保田看護学学生生活支援センター長、栃澤IR室副室長〕

事務3名：〔池田学務部長、錦野薬学学務部長、芦田研究推進課長〕

IR室事務4名：〔外山課長、前野課長、村上主任、濱田主任〕

欠席：計2名

内訳：構成員2名：〔池西構成員（第1号）、赤池構成員（第2号）〕

（ご欠席の構成員には、会議当日のビデオを視聴頂きご意見を伺う機会を設けた）

### 検証結果：

#### ①学生に対するアンケート結果

##### 学生に対するアンケートの内容（第3条第7号関係）

- ・学生からのフィードバックであるアンケートは、教育の質保証上、非常に重要であるが、85%の回答率は十分に高く、学生の勤勉さも窺える。

##### 指摘事項等

- ・未回答者に問題を抱えた学生も含まれることも予想されるため、今後回答率を100%に近づける方策とともに、調査結果を個々の学生のケアに繋げる方策も求められる。
- ・回答により何か成果が得られるのであれば、未回答者への回答の誘因となり得る。

#### ②教育活動の状況

##### 総論

- ・2021年の大学統合による教育体制の整備が進み、医学部、薬学部、看護学部の3学部体制が確立され、医療系総合大学としての教育体制の構築、運営が適切に行われている。
- ・最近の医療領域での重要な課題の一つであるデータサイエンス教育を進めていること、教育活動における生成AIの取扱いについて検討が行われ、学部学生、大学院生に対して基本方針「教育における生成AIの取扱いについて」を明示していること、さらに、その背景、理由についても明示していることは教育の質保証上重要な取り組みとして高く評価できる。
- ・特に医療ではプロフェッショナルリズム教育は重要であるが、丁寧に構築されている。

- ・卒業生へのアンケートや指導の実施等、卒業後もフォローする姿勢は評価できる。

#### 教授会、各種会議及び委員会等の開催状況と審議内容（第3条第1号関係）

特記事項なし。

#### アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの整合性（第3条第2号関係）

##### アセスメントポリシーに基づく学修成果の把握（可視化等）の状況（第3条第3号関係）

- ・アンケートやアセスメントポリシーに基づいた学修成果を把握、可視化し、年報に纏め、示されていることは大変評価できる。

#### 国家試験の合格状況（第3条第4号関係）

- ・医学部、薬学部、看護学部共に、全国的に高い水準を保っていることは教育の質が保たれているものとして高く評価できる。

#### 各センター・委員会における自己点検・自己評価の状況（第3条第6号関係）

内部質保証体制及びその稼働に関して、特段の指摘はなかった。

#### 外部評価機関からの指摘事項と改善策（第3条第8号関係）、その他

- ・前回、学部毎にカリキュラムの示し方が異なり、横断的な学部間比較の際に理解しにくい点を指摘したところ、他大学との比較も念頭に置きつつ、カリキュラムツリーを3学部共通様式にすべく調整するなど医薬看の連携を進めている点は、高く評価できる。
- ・前回指摘した入学前教育への対応について、対象者への積極的なアプローチと担当教員の協力体制により、学生の好評を博す等成果を収めている旨、医学部から報告があった。

#### 指摘事項等

- ・学部学生、大学院生に示されている「教育における生成AIの取扱いについて」については、生成AIの今後の成長による状況の変化に応じ、継続的な検討が必要である。

### ③研究活動の状況

#### 総論

- ・2021年の大学統合による研究体制の整備が進み、医学部、薬学部、看護学部の3学部体制が確立され、医療系総合大学としての研究体制の構築、運営が適切に行われている。
- ・外部資金は、全国的に見てもかなり高い獲得率にあり、科学研究費、企業との共同研究費等の獲得状況も良好で、研究の質が高いものと判断する。

#### 各センター・委員会における自己点検・自己評価の状況（第3条第6号関係）

- ・学部ごとに研究支援センターを設置し、各学部の特性に応じた研究の活性化、研究資金の獲得等に向けた活動を行っており、学部内に留まらず学部間共同研究および産官学連携研究への取り組みが行われている点は評価できる。

#### 外部評価機関からの指摘事項と改善策（第3条第8号関係）、その他

- ・プロジェクトのスタートアップのための3学部合同の学内助成金の必要性を前回指摘したところ、来年度から実施する計画を立案していることから、PDCAサイクルの適正な機能を確認した。

#### 指摘事項等

- ・本学に限らず、医療系の若手教員は実習等に多忙で研究費獲得が滞る傾向にある。とりわけ医学部では、働き方改革の中で、臨床は手を抜けず研究活動が後回しになり、全国的に研究活動が長期低落傾向になる懸念がある。金銭的、非金銭的に関わらず、若手教員の研究活動への意欲を鼓舞する継続的な支援策、奨励策についてご検討頂きたい。

#### ④学生生活支援活動の状況

##### 総論

- ・自ら申告し相談した学生には、適切な合理的配慮を受けられる体制が整っている。
- ・各学部において、定期的あるいは適宜の学生への声掛け、教員に相談できる体制の整備など、適正な学生支援のための取り組みが行われている。

#### 各センター・委員会における自己点検・自己評価の状況（第3条第6号関係）

#### 学生に対するアンケートの内容（第3条第7号関係）

内部質保証体制及びその稼働に関して、特段の指摘はなかった。

#### 外部評価機関からの指摘事項と改善策（第3条第8号関係）、その他

- ・前回指摘した倫理教育、人間性教育等の点について、真摯な取り組みや改善のフィードバックがあり、PDCAが回っていることを確認した。

#### 指摘事項等

- ・合理的配慮について、自ら申告や相談室に行くことができない又はしようとなし、或いは気付かないまま要配慮状態に陥った学生への対応が求められる。全学生へのアクセスの確保、相談室の利用状況の把握等、ご検討頂きたい。
- ・金銭的な理由で勉学を諦める学生が出ないよう対応をご検討頂きたい。

#### ⑤全体を通じて

- ・きめ細やか且つ柔軟に、社会情勢等に対応されている。システムや組織図なども良く考えられ、当会議の各意見へのきめ細かい対応にも非常に良い印象を受けた。これからも同様の対応を期待する。
- ・大学統合を契機に3学部揃って、良い医療人を生み出すべく改善しようとする意欲が、各報告全体を通して良く伝わって来た。
- ・今年度から、看護学部では、カリキュラム評価委員会が、学部と大学院を併せて、カリキュラム評価を実施することになった。現在、当会議は、点検・評価の内容が学部を中

- 心としたものであるが、大学院の点検・評価は今後どのように扱われるか。
- これまで当会議は、学部を中心に点検・評価を行ってきたが、次回以降、大学院も対象とする予定である。

以上